

「具体的なトレーニングマニュアル」Jesus' "Training Manual" for Pressure and Success

IHOP大学 - 講師デイビッド・スリッカー 終末論の文脈における三位一体との親密さ
プレッシャーと成功に準備する為のイエスからの「具体的なトレーニングマニュアル」
ヨハネの福音書13～17章シリーズ

I. 上の部屋の談話から上の部屋での聖霊の注ぎへ

- A. イエスは、新しい教会の指導者たちにヨハネの福音書13-17章で話した事があります。それは、弟子たちが神の御国の新しい指導者として遭遇するプレッシャーに直面しても、精神的、感情的に成功するように準備するためでした。イエスは、ご自身の死、復活、昇天が、将来弟子たちを待ち受けているプレッシャーと約束に関して、どのような意味を持つかを理解していました。良き羊飼いと、最高の使徒として、イエスは彼らの理解の枠組みの中に、この先彼らを待ち受けている複雑な出来事に耐えるために必要な道具、視点、真理を賢明にも組み込んだのです。イエスは、十字架にかかる前に、弟子である友人たちが次の人生とミニストリーの時期に体験するであろう、悪魔の攻撃、人間の怒り、悪評、苦しみ、成功の重さに耐えられるように備えられました。
- B. 「十字架に従う」とは何を意味しているのか？これから起こる出来事の「段階」は、イエスの地上での働き、将来の約束に自分の評判、生活、関係を捧げていた弟子たちにとって、非常に大きな犠牲と混乱を招くものでした。イエスは、自分の「一時的な敗北」の後には、驚くべき勝利と復活が待っている事を知っていました。使徒1-2章の上の部屋での聖霊の注ぎはイエスの弟子たちに力を与えることになります。十字架の前後の過程は、イエスの敵を大胆にし、怒りと抵抗を煽り、最終的には大きな迫害と痛みをもたらしました。その迫害の原因は何だったのでしょうか。それは、現存した社会秩序の中で、自分たちが影響力を持ち、豊かになることを可能にしている権力構造を維持しようとする政治的・宗教的指導者たちによるものでした。
- C. イエスは、弟子である友人たちがこれから経験するすべての事に備えるために、上の部屋の談話で「線路」を戦略的に構築しました。これには、十字架、復活、そしてローマ帝国全体に広がるイエスの新しい運動の爆発という、複雑な精神的、政治的、社会的、経済的な動きが含まれます。つまり、イエスは、エルサレム、ユダヤ、サマリヤ、そして地の果てまでの聖霊の注ぎに続く成功とリバイバルの混乱と困難に耐えることができるように、弟子達の装備を整えようと努力されたのです。成功、リバイバル、成長、権威、打ち破りには、始まったばかりの運動の成功によって悪影響を受ける人々から

の迫害や苦しみと同じくらい複雑で、謙虚さと心の低さをもっても乗り越えるのが難しい状況があります。

- D. イエスは、ご自身の友人やこの新しい運動のリーダーたちを、恐れ、心の悩み、幻滅、方向感覚の喪失、落胆、攻撃、裏切り、失敗、恥などの外側からの脅威だけでなく、心の内側からの脅威にも打ち勝つために必要な、持続的で深い平和、命、喜びを確立しようとされました。イエスの願いは、イエスの喜びが私たちの中にとどまり、私たちの喜びが満たされることでした(ヨハネによる福音書15章11節)。
- E. 失望や迫害、約束の達成といった「嵐」の中でも成長する持続的な喜びとの深いつながりを築くことは、私たちの召しのゆえの苦しみの中でも長く生きていくために重要です。私たちは、どのようにして困難やプレッシャーを乗り越え、自分の道を見失わないようにすることができるでしょうか？

II. 失望と幻滅の嵐をもたらす十字架

- A. イエスの弟子たちは、メシアに対するユダヤ人の期待、メシアの時代、イスラエルの完全な運命を確立し、ダビデの家を回復し、異邦人の屈辱とユダヤ人とエルサレムへの絶え間ないプレッシャーをもたらすためにヤハウエが行うことについての約束と期待が成就した時代に生きる事がどのようなものであるかについて、私たちが持つ最も顕著なイメージを示しています。弟子たちは、私たちが自分の将来に関連する神の約束や運命を選択的に理解していることを明確に示しています。私たちは、自分の満たされない思い、不満、野心を約束に投影して見っていますが、キリストの十字架によって、神の約束や私達の使命の成就不再はなされていくのです。未来は私たちが考えるように展開しないでしょう。これからの複雑な日々の中で、私たちがなぜ信仰に堅く立つ必要があるかが問われます。
- B. 私たちは、自分が思っていた通りに物事が進まないとき、神様を求めるでしょうか？神様の存在を感じられない時に、神様の元に留まるでしょうか。状況に失望したときに、神様を愛し、信頼するでしょうか。私たちは、困難の中で愛を育むために心を整える方法として、「信仰の筋肉」を鍛えなければなりません。主の臨在を感じられないとき、あるいは状況が困難なとき、私たちの最初の傾向は、落ち込んだり、不平を言ったりすることです。「三位一体の会話」をしながら、“なぜこのように感じるのか？”という質問をします。そうすることで、私たちは主の遺産であり、愛のために存在しているという真理に心をしっかりと合わせることができるのです。

C. 私たちが成就を期待する神の約束や潜在的な運命を見る時に使う、自己中心的な歪みのある、高慢なレンズも、イエスにある私たちの未来を管理するイエスにとって、不適格ではありません。それどころか、イエスは、失敗や幻滅を通して、主の愛と愛情に留まる喜びに向けて、弟子たちの心と人生を再調整する視点と目的に結び付けようとされます。つまり、イエスは、物事が自分の考えていた通りにならなかったり、約束が自分の思い通りに成就しなかったりしたときに生じる痛みや失望を免れようとはしません。むしろ、イエスは彼らが主の愛に留まることができるようにし、十字架の痛みや幻滅、自分の失敗や裏切りよりも強いものにしがみつ়手段を与えているのです。

D. イエスは、大きな失望に直面しても変わらぬ喜びを得られるように、彼らをどのように整えているのでしょうか？

1. ヨハネの福音書13章:彼らが互いに仕え、戦うように呼びかけています。ヨハネ21:3でペテロのために「私たちも一緒にいきます」と表現しています)。

2. ヨハネ14章:主の命令を守り続けることによって、主とその約束された結果を信じるようにと言われます。絶望して真理を見捨てるのではなく、主の命令を守り続けることで、主と主の約束された結果を信じるようにと呼びかけています。

3. ヨハネ15章:主の愛にとどまり、主の愛を表すために、互いに命を捨てるように呼びかけています。互いに命を捨て、主の愛を憎むべき世界に示すことを求めています。

4. ヨハネ16章:大きな悲しみ、痛み、耐え難い裁きの中で、語り、宣言し、奉仕して下さる助け主、聖霊と関わるようにとのことです。

5. ヨハネ17章:彼らのために(そして私たちのために)祈っています。それは、悪しき者による方向感覚を無くすような攻撃(17:15)や、耐えられないほどの拒絶や世間からのプレッシャー(17:16)を受けているときに、深い一致を得るための深い慰めと安心の源となり、神の愛の炎に完全に包まれることを楽しむ事になるのです(17:26)。

III. 復活と聖霊の注ぎ:成功の嵐

A. イエスの燃えるような愛と愛情に「根ざし、地に足をつけた」心、つまり、私たちの視点、私たちが何のために生きるのか、私たちがどのように互いに愛し合うのかを劇的に変える愛を身につけるためのイエスの「道しるべ」の素晴らしさは、起こるべき混乱と妨害の間、私たちの心の錨となることです。

- B. 父、子、聖霊との「三位一体の会話」をすることで、私たちは恵みによって、神の愛に関わることで得られる優れた喜びや爽快感の中に自分の魂を留めるように努めるのです。私たちの人生の目標は、雅歌1:4「私を引き寄せてください、～急いでまいります」となり、第一の戒めとイエスの愛を最高の願いや夢とします。イエスは、主の愛と愛情という優れた喜びを持続的に追求することが、私たちを内側から洗って変え、私たちの考え方、時間の使い方、価値観、尊敬すること、大切にすることなどを変えていくことを理解しています。
- C. 御父の願いは、私たちが御父の愛の大海原に身を投げ出し、御父が私たちとの結びつきから得られる深い喜びと満足を受ける様な旅に出ることです。燃える様な神の愛で封印されるという約束と、主の超越的な愛情の中で私たちが経験できる喜びは、神の約束と目的を正しい優先順位と視点で表しています。むしろ、ミニストリーの成功とそれに続く混乱は、私たちの真の献身と忠誠を試みるテストになるのです。私たちは、福音の約束と栄光に対して、本当に地に足をつけて留まっていますか？私たちは、キリストとの結びつきの驚くべき意味合いと、今、私たちが探求すべき内にある喜びを、本当に理解しているでしょうか？
- D. 聖霊や兄弟姉妹との結びつきや交わりの中には、深い喜びと深い楽しみがあり、私たちの心を最も深く、最も満足させることができます。神の愛につながり、その中にとどまるように、互いに愛し合い、仕えようとする時に、私たちは、恐れ、悩み、利己的な野心、むなしいぬぼれ(ペリピ2:3)が私たちの感情を混乱させ人生を圧迫するものから解放され、神と互いの中に見出すことのできる楽しみと喜びを体験することができます。重荷ではなく、深い感謝と謙遜さをもって、自由に見て楽しむ心の喜びは、楽しくシンプルで心配のない未来をもたらします。
- E. ペリピ2:1-4は、パウロの「三位一体の会話」への輝かしい貢献の一つであり、キリスト・イエスを知るという目標(ペリピ3:12-14)、すなわち、キリストとの交わりと愛で満ちるといふ「上に召してくださる栄冠」に向かって進む為に「後ろのものを忘れる」ための手段です。このようにして、パウロの心と魂は、欠乏や迫害の季節にも、成功や富の季節にも、また人生のどのような状況にも満足することなく、より強いものに支えられていたのです(ペリピ4:11)。
- F. イエスが生んだ運動、つまり、イエスの弟子たちによって継続されてきた運動は、彼らの犠牲や、ユダヤ人指導者やその他の人々から受けた軽蔑を正当化するような形で、

大きな成功を収めようとしていました。突破口、正当性、油注ぎ、そして福音の力が完全に発揮される日に、彼らはどのように反応するでしょうか？上の部屋の談話からわかるイエスの願いは、「ミニストリーや働きの成功」の日に、イエスに留まり、互いに仕え、祝福することができるように、また、その成功の間に自分を見失うことがないように、友人たちの心を整えることでした。

- G. 成功と高い生産性は、キリストとの親密さの微妙な敵となり得ます。私たちは今、このような時期に私たちを助けるために遣わされた聖霊と共に歩みながら、父が考え、感じ、おっしゃることを絶えず語り、留まることに勤めています(ヨハネ14:13, 14; 15:7; 16:23-24))。私たちは今、御霊に語りかけます。そうすれば、「より多く」の季節に訪れる多くの機会、要求、期待、プレッシャーの中で、御霊と共に歩むことができ、地域や人々に大きな成長と御霊の力強い動きがもたらされるのです。

IV. 一人ではない - 平和と喜びの源としての父

見なさい、その時が来ます。いやすでに来ています。あなたがたはそれぞれ散らされて自分のところに帰り、わたしを一人残します。しかし、父がわたしとともにおられるので、わたしは一人ではありません。33これらのことをあなた方に話したのは、私にあってあなた方が平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし勇気を出しなさい、わたしはすでに世に打ち勝ちました。(ヨハネ16:32-33)

- A. 私たちは、現在の失望や成功を通して「準備される為のひながた」に留まり、働くことで、内面的な安定性を高め、主の臨在と自分の人生における主の導きとの積極的なつながりの感覚を高めていきます。私たちは、喜びと平安をもって耐え忍び、乗り越えるための準備ができているのでしょうか？プレッシャーが来たとき、私たちの現在の初期設定の視点と反応はどのようでしょうか？プレッシャーも成功も、私たちの根底にある不信仰の領域を現し、私たちの自己依存と自己充足感を明らかにする役割を果たします。私たちは、あらゆる努力や取り組みにおいて、神の満たしに大きくより頼み、必要としていることを自覚し、その範囲内でとどまるよう努力します。
- B. 私たちは、知恵、霊的理解、洞察力、明晰さ、変革された感情、願望、展望を解き放つ聖霊の働きが増していないのに、人生の成功のために「十分にある」「十分である」と言って騙されてしまうのです。聖霊の無限の供給の中で自分たちの弱さに留まり得られる神の資源の中で、経験し楽しむことができるものが「どれほど多いか」についてはほとんど認めていないので、継続的にかなり少ないものに甘んじています。そのため、

私たちは信仰だけで行動することに「慣れて」しまい、その先にある嵐や悩みの中で自分の不毛さがどれほどの代償を払うことになるかを知らないのです。

- C. 私たちは、悩みを一人で抱え込むことや、神の御心や恵みが働いていないのに自分の成功を維持することを拒否する人生を築きたいと思っています。約束と迫害の時代の前の「ありふれた日常」の時代に、私たちは滞在し、繋がり、心に触れ、心と呼び覚ますような活発な会話をする人生を築くために勤めたいと思います。私たちは今日、イエスが与えてくれた地図に沿って共に歩むことで、留まって満足することができ、私たちは一人ではない事を試練の中でも確信することができます。私たちは、神にある私たちの体験した事の歴史を携えて、次の試練やプレッシャーや困難に向かうことができるのです。